



第60号

昭和39年6月1日 毎月1回1日発行
昭和38年1月23日第三種郵便物認可

☆6月のこよみ☆

1日	電波の日	23日	オリンピックデー
	気象記念日		救らいの日
4日	虫歯予防デー	25日	船員労働安全衛生月間
4-10日	歯の衛生週間		高圧ガス危害防止運動
7日	計量記念日		
10日	時の記念日		
21日	父の日		
22日	夏至		

町民税が

軽減されました

4月30日開催の町議会で、町税条例の一部が改正されました。その主眼とする町民税の改正は、地方財政の実情等を考慮しながら住民の税負担を軽減し、更に合理化して、税の不均衡を是正することにあります。

以下、そのあらましを述べてみます。

①非課税範囲の引きあげ
障害者、未成年者、老年者（明治32年1月3日以前出生の者）または寡婦について、所得金額が18万円まで非課税とされていましたが、今回の改正で20万円に引き上げられました。

②課税方式の改正
昭和40年度から、課税が本文方

式になるわけですが、39年度分については、現行の「たし算方式」に次の点が改正されます。

○所得控除として、扶養控除が新設されました。

○現行の課税方式においては、所得控除として、基礎控除9万円だけであったのが、改正により、次の扶養控除が認められました。

	改正前	改正後
1、世帯員	5人	5人
2、総所得	272,400円	272,400円
3、所得控除		
①基礎控除	90,000	90,000
②扶養控除	0	100,000
4、税率	超過累進	準拠
5、算出税額	4,630円	1,640円
6、税額控除		
①専従者1人	1,000	1,000
②扶養3人	1,800	0
7、所得割額	1,830	640
減税額		△1,190

○専従者にかかる税額控除が法定されました。

10月10日から、第18回オリンピック東京大会が開催されますが、開会式の行事で欠くことのできない「聖火リレー」に、町の青少年7名が参加することになりました。

「聖火リレー」は、ギリシャのオリンピアで、古式によつて採火して運び、そこから日本まで空輸して国内を4コースにわけ、青少年たちの手によつてリレーされ、開会式に、国立競技場の聖火台に点火される、厳格な行事です。

その第4コースが北海道の千歳空港を出発点とし、東北地方を経由して、10月2日に栃木県境から茨城県にはいり、まづ稲城市が引継ぎ下館で1泊、10月3日、協和岩瀬、笠間、友部、内原を通り水戸市で1泊、10月4日、茨城、美野里、石岡、千代田を経て土浦市

固定資産は新評価で

農地は従来どおり

か心配している方もあるかと思いますが、この課税方法等についておしらせします。

土地は……

本年度から41年度分までの3年間は、つきのとおり税負担の調整がおこなわれます。

①農地で、新しい評価額が38年度分の課税標準額をこえる場合は、38年度の課税標準額によって算定された税額にすえおられます。

したがって、地目変換などの関係以外の農地については、38年度の税額より高くなることはないことになります。

②農地以外の土地で、新しい評価額が、38年度の課税標準額をこえる場合でも、3年間は、38年度の税額の2倍にとどめられます。

1 家屋は……

既存の家屋は、従来どおり課税されます。

新築家屋に対する固定資産税が39年度からは、最初の年度から3か年間は、2分の1に減額されることになりました。

この適用になる条件は、昭和38年1月2日以降に建築した住宅で床面積が85平方メートル以下で、3平方メートルの価格が8万円以下のもの、そして、居住の用に供する部分の床面積がその家屋の床面積の2分の1以上であるものとなっています。

町の若人が参加

聖火リレーに

10月10日から、第18回オリンピック東京大会が開催されますが、開会式の行事で欠くことのできない「聖火リレー」に、町の青少年7名が参加することになりました。

「聖火リレー」は、ギリシャのオリンピアで、古式によつて採火して運び、そこから日本まで空輸して国内を4コースにわけ、青少年たちの手によつてリレーされ、開会式に、国立競技場の聖火台に点火される、厳格な行事です。

その第4コースが北海道の千歳空港を出発点とし、東北地方を経由して、10月2日に栃木県境から茨城県にはいり、まづ稲城市が引継ぎ下館で1泊、10月3日、協和岩瀬、笠間、友部、内原を通り水戸市で1泊、10月4日、茨城、美野里、石岡、千代田を経て土浦市

嵯谷善四郎(15) 立花中

田中和広(15) 同

鈴木正三(15) 同

金塚 元(15) 同

中田邦雄(16) 玉置工高

小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中

正走者 飯田 栄(20) 連合青

副走者 中田邦雄(16) 玉置工高

随走者 小島 武(15) 玉置中



玉造工高1年のあゆみ

完成近い校舎設備

昭和38年4月、科学教育の場として、地域の大きな期待のもとに、県立玉造工業高等学校が開校してから、1年を経過しました。

この間の歩みを、まとめて紹介します。

校舎、校庭
本館は、鉄筋コンクリート造り3階建て、二二二二平方メートル、近代的建築が3月にできあがり、1階は、事務室、職員室、校長室などの管理室になっており、2階が電気科教室、3階が機械科教室になっています。

機械科の実習棟は、鉄骨造り、八九九平方メートル、電気科の実習棟は四八〇平方メートルであり、引き続き、次期工事には、ついでに、校庭は、37年8月から38年8月まで、1か年にわたって整地を完成し、6ヘクタールの広大な敷地ができました。

町当局の好意で、周囲に小さな土手を築き、桜、ヒマヤシ、イチョウ、マサキなど、本近くが植えられました。学校でも、環境整備委員会を設けて、美しい学園広場の造成につとめています。

施設、設備
工業科目関係の施設、設備は、次のとおりです。

◇機械実習棟
機械実習工場II旋盤、形削盤、フライス盤など。

仕上組立工場IIボール盤、電気ドリルなど。

鍛造工場II空気ハンマー、電気炉

年々歳々細くなり、浅くなっているところである。

私は、今から四十五年程前、一閑寺の横町側の下を流れる川で、大きな鯉を捕えたことがある。

それは、あの頃ベンツなどなかったもので、すばたか、急所を噛まれるのを要しながら泥だらけになって捕えた、体長五センチ程の大鯉だった。

今見ると、メダカも住めないくらいになってしまったあの川は、その頃、今の倍も広く、鯉の住家となる程また深かった。

その頃、鯉の住みかがあった。私たちは、日でも夜でも、川の水が少なくなると、岸に石を置いて、鯉を見物していた。三の愚友と相談の結果、その怪物の棲る大鯉を、町の中央にあるという旅館に売ることになった。

その頃の主人は、頭のツルツルはげあがった、剣道の達人、近藤勇見たいな人だった。

私は、愚友の言葉を聞き出し、その恐ろしい主人にビクビクしながら漁業交渉をやったが、案に相違して、彼は、てっぺんのはげたところまで三三三三とそれを五十銭で簡単に買ってくれた。その頃の私は、五月の鯉旬に

も、五銭位しか小使をもらわなかった時代だから、五十銭は大金だった。高値に売れたのか、近藤勇に安値で売られたのか、もちろんわからないが……

その頃、旅人宿という大きな看板をかけたこの宿は、夢宮線などなかった時代だから、行商のいつづけ客で、二銭の音もきこえ、夜毎に騒音していた。

これも心にも、大鯉を金にするなり、こころ外にないと考えたのであったろう。帰りに、愚友は「小学校では経済学を教えられるのだから、宿の主は、あの鯉でたくさん金をもうけるのだ」という話をした。

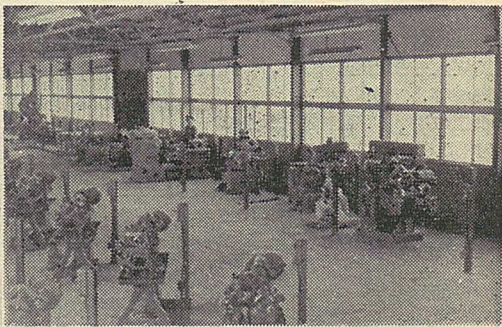
私は、その時の鯉の売りあげ金五十銭を、どうわけ、何に使ったのか、今、一つも思い出せない。

生まれてはじめて握った大金のゆえを忘れてしまふ様な、金に縁のない性質なので、私は、いまだに貧乏である。驚愕して金をためても、往生する時厄介だから、このままで最後まで生きるつもりなのである。

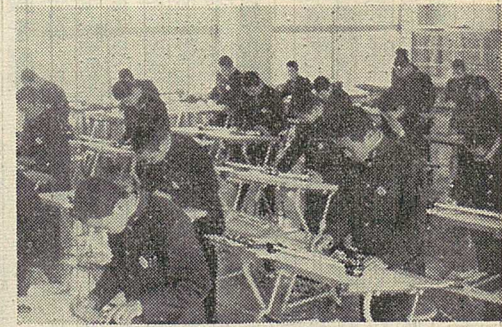
と、角、私が悪い出せるのは、一閑寺下あの川は、一体名前があるかどうか知らないが、今と比べて、ずっと広く、深かったというところだけである。

もし、あの川が、鯉の深い人間の私物であったなら、今日、あんなあわれな姿にはならなかったはずである。

私有地と私有地の間を流れる公



機械実習工場

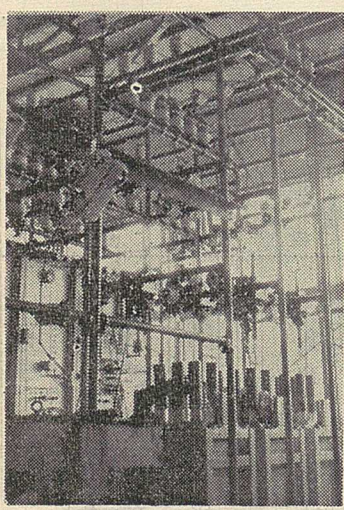


電気実習工場

りつばな校風をつくるために、風紀、図書、保健、出版などの分野で、自主的な活動を行っています。

クラブには、野球、サッカー、陸上競技、庭球、社会、計算尺、英語、ラジオ、美術、自動車、などがあり、体育部門では、高校体育大会の競争野に、玉造工高の旗を掲げています。

文化部門でも、工業高校協会の計算尺大会に、多数の検定合格者を出したのをはじめ、工業高校生徒研究発表会に発表者を送るなど、人文科学方面でも、着々と基礎をつくりつつあります。



電気実習工場

鯉 (なまず)

神戸市 宮本 佐市



右の森が一閑寺

「蛙のいいなき、草の葉の一寸ひらき」
湖畔の春を表現する、この詩的な言葉が、今の玉造にもあるだろうか。

水ぬるむ頃になっても、近頃の農村少年は、化学肥料や、殺虫剤乱用の影響で、かび田（ひからびた田）という意味の方言か）にどじょうを捕る楽しみもなくなったのではあるまいか。白魚やわかさぎなどが、近代農業の犠牲になる様

なことがあつてはなるまい。

どじょうは、朝平狩りの様な楽しい少年時代の遊びだった。もし、今、それが昔の様にできれば、スモッグや自動車の排気ガスに悩む都会の人に、春の行楽としてすすめてもいいものである。かひ田のどじょうは、相手がダイナミックな獲物だから、はまぐりなどより面白いはずである。私は、このどじょうの素朴な味が大好きで、今でもこれを食糧に、狸の少年の頃の味を懐かしむのだが、冬眠期の関係か、関西のどじょうは関東のものより、骨が堅くてまづいのである。

と、角、近頃は都会の市場のどじょうは、例の農薬の影響で、全国的に品不足となり、鯛より高値になってしまった。どじょうの養魚という様なことも、農村の産業として真剣に考えて見る必要があるのではない。

私共の様に、ふるさとを離れて生活した者が、時々帰省して意外に思うことは、こうした自然物が失われて行くと同時に、歌の文句にある「小鮒つりあひの川」が

も、五銭位しか小使をもらわなかった時代だから、五十銭は大金だった。高値に売れたのか、近藤勇に安値で売られたのか、もちろんわからないが……

その頃、旅人宿という大きな看板をかけたこの宿は、夢宮線などなかった時代だから、行商のいつづけ客で、二銭の音もきこえ、夜毎に騒音していた。

これも心にも、大鯉を金にするなり、こころ外にないと考えたのであったろう。帰りに、愚友は「小学校では経済学を教えられるのだから、宿の主は、あの鯉でたくさん金をもうけるのだ」という話をした。

私は、その時の鯉の売りあげ金五十銭を、どうわけ、何に使ったのか、今、一つも思い出せない。

生まれてはじめて握った大金のゆえを忘れてしまふ様な、金に縁のない性質なので、私は、いまだに貧乏である。驚愕して金をためても、往生する時厄介だから、このままで最後まで生きるつもりなのである。

と、角、私が悪い出せるのは、一閑寺下あの川は、一体名前があるかどうか知らないが、今と比べて、ずっと広く、深かったというところだけである。

もし、あの川が、鯉の深い人間の私物であったなら、今日、あんなあわれな姿にはならなかったはずである。

私有地と私有地の間を流れる公

霞ヶ浦に四十年
荒宿 鈴木 馨

霞ヶ浦には大きな鯉がいて、時々15位のものが取れることがある。生まれて何年位育ったかわからないが、多くの苦難に耐えて、負けて生き抜いてきたことであろう。

私も、家を継いで4年、霞ヶ浦の魚を相手に生活してきたのでそろそろ、主かも知れない。

40年前買出しにいった頃は、ずいぶん魚が取れ、荒宿の浜でも帆引き漁の舟4隻、雑魚を取る舟が40隻もあり、一度に6千位の取引きができたものだった。鰯、カサギも一日3万、コマセの塩漬年間5千俵（4斗）塩も一日20斗入一〇〇かますも使い、夕方など漁を終って帰る舟、鰯を積み出してくるトラック、製品を積み出すトラック、樽を準備する職人、塩漬する人等、50人も集まっていた。さやかな風景を呈したものであった。

又、魚にもいろいろの変化があった。わかさぎ、白魚等昔から長くこの地に住んで来たものには余り変りないが、他から入ってきた魚多い。ハヤ、ヒギイ、エビガニ、カモチン等、来るとは消えていったものである。フナもずいぶん変化があり、源五郎フナ、金フナ、平フナ等が少なくなり、ワナフナという大形のフナがとれるようになった。人の世の浮沈にも似た魚の運命である。

を流れるキレイな川に、ウグイなどの大群が棲息する処があるのだから、この様な美しい町や村づくりは、どこでも可能なはずである。世の中は、年ごとに改竄されていくのに、その反対に、年々歳々悪くなる農村の川を、改善して、水と魚を豊かにしたいものである。水を好む青年にちなんで、二つ町ぐるみで川を愛する運動をおこしては、いかがなものだろうか。

しかし、同じこの日本には、町

ハイ・ゆうびん

あて名は正確に

郵便物を早く確実に届けるためには、表面のあて名を、明りよう、正確に記載することが必要です。

まちがった住所を書いたり、〇〇市とだけしか書いてなかったりするため、マイゴになる郵便物は、1日に全国で約20万通もあります。これでは、郵便局でたいへん手数がかかるだけでなく、利用者としても、たいせつな用件をはたすことができないわけですから、あて名の記載には、次の点を充分注意していただきます。

- 1 都、道、府、県名、町名、番地まで正確に。
- 2 同居人や、小さい子どもに出す場合は、世帯主の氏名を肩書きする。
- 3 個人経営アパートの居住者あては、〇〇荘等アパート名を団地あては、棟番号、室番号を必ず肩書きする。
- 4 鉛筆で書いたあて名は読みにくいので、インキか墨で書く。
- 5 字体は、カイ書でわかりやすく。草書の達筆は、まちがいのもとになります。
- 6 差出人の住所も、町名、番地肩書き等、正確に書く。
- 7 小包には、荷札を2枚以上つける。

簡易保険の最高額 100万円に

生命保険の目的は、死亡保険

にあつては、遺族の生活保障、生存保険にあつては、老後の生活資金の確保にあります。

保険による経済生活の安定は保険金が高額なほど、高まるわけです。

ところで、最近の社会経済事情の推移からみて、いままでの50万円では、前に述べた目的を達成することがむずかしいので、4月20日から、法律の改正により最高額が100万円になりました。

特別養老保険ができました

特別養老保険は、従来の養老保険に比べて、保険料を少し割増しただけで、死亡の際には満期のときに支払う保険金の倍額を支払うものです。

加入年齢は、20歳以上50歳以下、保険期間は、25年または20年満期となっています。

簡易保険新加入運動

5月1日から6月30日までの2か月間、保険金100万円引上げ記念簡易保険新加入運動を展開します。

自分たちの老後のことを考え、また、交通事故などの危険がふえているとき、万一のことがあっても、憂する者が経済的に困らないよう簡易保険で準備しておいて、安心のある日々を送ることをおすすめします。

家庭教育学級を開設

浜小学校、手賀小学校の2校でPTAを主体として、家庭教育学級を開設することになりました。

これは、家庭教育の重要性を考え、両親に対し、家庭教育に関する学習の機会を拡充するために、文部省が助成して実施するものです。

一年間を通じて、家庭教育に関する内容を学習し、学校と家庭と一体となつて、子どもの成長、発達のために努力することに、大きな期待が寄せられます。

くわしい内容は、計画がきまるとおしらせします。

次号おしらせします。

商工会欄

経済講演会を開催

5月19日午後2時から、青年研修所において経済講演会を開催しました。

講師は、世界動向研究所長の中里重忠先生で、世界の経済情勢、日中経済関係、日本経済の現状、現下の経済情勢下における企業の基本等について、約2時間の熱弁をふるい、商工業者の、現下における経営方針を明示しました。

自治金融審査会

41年後からは、5人未満、すなわち1人でも雇用する事業所につ

失業保険に加入を

本県における、失業保険事務組合は、66か所あり、これに事務を委託した事務所は、一〇八四、そこに働く被保険者五九八八名となつています。

店舗診断を

企業は、生産、販売、財務、労働等の経営部門の有機的なつながりによつて運営されます。従つて、その中の一つでも故障や欠陥があると、企業はうまく行きます。この故障、欠陥を見つけるのが診断です。病氣も、重くなると取りがえしづなうことになります。

計量記念日

昭和26年6月7日は、計量法が公布されました。

正しいばかり、狂いのない目盛りは、そのまま、正しい私たちの生活につながるものです。特に、商工業者は、企業の信用にもつながるものです。常に、正しい計量で、店の発展をはかりましょう。

廻報たまつくりを発行

6月から、廻報たまつくりを発行します。

草人俳話 (3)

川島草人



最近、釣りに興味を持つようになった。水面に糸を垂らして、じっと浮子を見守る心は、人生の裝飾もなく、悠々たる無心の境地である。心が一点に集中し、魚の引く浮子に興じ、微笑の湧いてくるのも釣りの楽しみの一つであらう。

俳句も又、つくりたい心がまえができておれば、浮子をみつめる如く心をときまして「写生」している、心に感動を覚えるものである。

この感動を大事に、十七音にまとめたのが、俳句である。

「写生」によつて、一句一句とくつていく体験が重なつて、秀句が生まれてくるが、これは、作者の幅の深さ、広さによるものである。

物を観る心の動きは「写生」の態度が基本となり、大自然に対する愛も、人間関係の情も、俳句という詩によつて煮められ「写生」によつて美しい詩心が育てられるのである。

梅雨の炬に揺蕩っている燈舟守 草人